

# イチゴ「ふくはる香」の超促成栽培

福島県農業試験場 いわき支場  
平成16～17年度農業試験場試験成績概要  
分類コード 03-07-13180000

部門名 野菜－イチゴ－施肥法、作型・栽培型  
担当者 常盤秀夫・石郷岡典子

## I 新技術の解説

### 1 要旨

「ふくはる香」は、とちおとめと比較して草勢が強く、大玉で多収であることから、超促成栽培（8月下旬定植、11月中旬収穫始め）への適応性が高い。また、「ふくはる香」は、育苗期間が6～9週間であれば収量に影響がなく、本圃元肥施肥量は窒素成分で1.3 kg/aまで減ずることが可能である。

- (1) 超促成栽培におけるふくはる香は、とちおとめと比較して厳寒期の草勢が強く、糖度は同等、厳寒期の収量はやや少ないものの大玉で総収量は多収である。（表1、図1～3）
- (2) 本圃元肥施肥量は、窒素成分で2.2～1.3 kg/aの範囲では収量に大差は無いことから、1.3 kg/aまで減ずることが可能である。また、育苗日数については6～9週間の範囲では明確な収量差はなく、採苗が容易である（図4）。

### 2 期待される効果

ふくはる香の超促成栽培導入により、産地におけるオリジナル品種の出荷期間を拡大することができ、また、ふくはる香は、県施肥基準の元肥窒素量1.5～2.0kg/aよりも施肥量を軽減することができ、窒素肥料による環境負荷が軽減される。

### 3 適用範囲

県内全域

### 4 普及上の留意点

- (1) ふくはる香の品種特性を理解したうえでの栽培が必要である。
- (2) 育苗時の施肥はIBS1号を用い、200mg／株施用した。
- (3) 本圃元肥は、緩効性肥料と有機配合肥料を、成分で6:5の比で施用した。

## II 具体的データ等

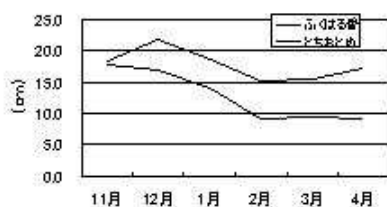


図1 超促成栽培における草丈の推移(2003)

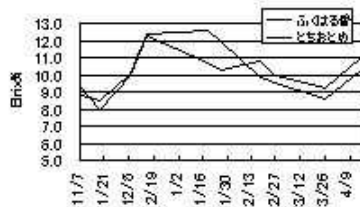


図2 超促成栽培における糖度の推移(2003)

「ふくはる香」は草勢が強い

「ふくはる香」の糖度は「とちおとめ」と同等

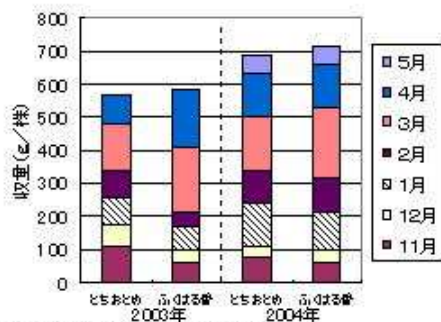


図3 超促成栽培における収量

表1 超促成栽培における各品種の平均一果重(2003年)

| 品種    | 平均一果重<br>(2月まで) | 平均一果重<br>(全期間) |
|-------|-----------------|----------------|
| ふくはる香 | 13.1            | 14.8           |
| とちおとめ | 12.7            | 13.5           |

「ふくはる香」は「とちおとめ」より多収で大玉である

これらのことより、  
「ふくはる香」は「とちおとめ」と比較して  
超促成栽培への適応性が高い

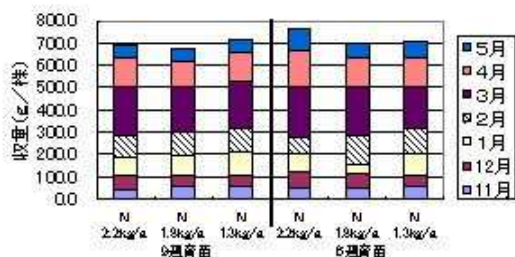


図4 超促成栽培における施肥量、育苗日数が収量に及ぼす影響(2004年、ふくはる香)

また、ふくはる香の超促成栽培においては・・・

本圃施肥量を  
N 1.3kg/a まで減じて  
も収量に影響はない

育苗期間 6～9週間  
では収量に大差がない

### Ⅲ その他

#### 1 執筆者

常盤秀夫、石郷岡典子

#### 2 主な参考文献・資料

なし